

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392200073		
法人名	株式会社 ゆずりは		
事業所名	グループホーム奥町		
所在地	愛知県一宮市奥町前沼33-1		
自己評価作成日	平成24年2月11日	評価結果市町村受理日	平成24年7月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中区百人町26 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成24年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居様が安心して落ちついて生活できるよう支援し、季節を感じる事が出来るように行事や外出を行なっております。
 近くの喫茶店や買い物に出かけると、地域の方々に声をかけてもらったり、助けていただけるようになりました。
 入居様の笑顔がみられるよう、話の傾聴に努めていきたいと思っています。
 家族との信頼関係は、年2回の家族会や面会時にお話をうかがうことで、よりしっかりと築きあげていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎月避難訓練を行なうことによって、利用者の特徴や癖がわかるようになりケアにも役立っている。職員は利用者が自分の親だったらという思いで関わるようにしており、利用者と同じ目線で話を聞き、利用者の思いをすいあげ、それを実現できるように努めている。職員同士のつながりも良好で会議や勉強会をすることにより利用者への介護が統一されてきた。家族会を年2回開催し、行事の参加も年々多くなってきており良好な関係が築かれているのがアンケート結果でも伺えた。地域とも年々、関わりが深くなってきており、消防署立会いの下の避難訓練では近所の人に参加してもらい、利用者を誘導する係りを手伝ってもらっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員には入社時に事業所の理念を伝え、会議などでも話し合いをしています。	職員会議で折にふれ初心を忘れないよう理念に立ち返り話し合いをしている。利用者の思いをすいあげて、利用者の笑顔を見ることができるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物に出かけたときに、近所の方に挨拶をしています。保育園の行事に参加できるようになりました。喫茶店にもよく出かけるので、顔馴染みになってきました。	近くにあるお地蔵様まで散歩に行く途中で、公民館で行事がある時には地域の人と挨拶を交わしている。保育園や中学校の運動会に参加できるようになり子供との関わりが持てるようになった。また、近隣の中学生の体験学習の受け入れを8月に行なっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の方々が気軽に遊びや相談に来ていただけるように声かけしています。喫茶店や買い物に出かけた時に、お店の方が話し相手になってくださってます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や行事、事故報告などを行い、地域の方や、市の職員から意見をいただき、有意義な会議になるよう心がけています。	年6回行なっている。ホームの行事や利用者の様子を報告し、また、事故報告も行ない参加者それぞれの立場からの意見をいただき、ケアの参考としている。東日本の震災以降は防災についての話が多くなった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1度の運営推進会議はもとより、常に連絡が取れるようにし、質の向上に努めています。	市の高年福祉課の職員が参加しており、又、代表が何かあれば必ず相談に役所へ出向いているので、協力関係の構築がなされている。市主催の研修にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しても会議を行い、職員の共有認識を図っています。玄関の施錠は勿論、言葉についても気をつけています。	月1回の職員会議で、身体拘束についての検討例をあげて話し合い、身体拘束をしないケアを実践している。玄関の鍵は日中はかけていない。自分で外へ行きたがる人には一緒について出て、散歩をして帰ってきている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月会議を行い、虐待防止に関して理解をし、虐待行為にあたる事がないよう注意を払っています。また、日々のケアの中でしっかり観察をし、虐待が見過ごされないようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、職員間では資料を基に理解を深めるように努めています。また、個々で必要な方については、会議で話し合い、市役所や各関係者に相談をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ケアに関すること、利用料金、解約に関することなど同意をしていただけるよう丁寧に説明をしています。また、解約時にも家族に理解を求めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見を記入できるノートを用意しています。また、ケアプラン更新時には、ご意見が聞けるよう用紙を準備したり、家族会や面会時に話を聞いたりして意見を反映できるようにしています。	家族会を年2回開催している。6月は平日だったため家族より日曜日にして欲しいと要望があり、11月には日曜日に行なうよう改善した。家族への伝達は口頭と文章で伝えるようにして、伝達に漏れがないように心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の会議で意見及び提案を聞いています。また、日頃から意見を言いやすい環境作りに努めています。	職員会議で、職員は担当の利用者への気づきや思いを話し合うことで利用者への介護が統一されてきている。職員からの意見や要望はリーダーから管理者へ伝わり代表へ伝わっている。必要なことは代表からフィードバックされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるよう支援し、個別にも話を聞き、働きやすい職場を目指しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員の段階に応じて、研修や講習を受講できるようにしています。そして、会議で発表してもらうことで職員間で共有しています。また、施設に講師を呼んで、勉強会を行なっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者が開催している研修会や講習会に参加させていただいています。また、それを会議で発表し、サービスの質を向上できるような職員間で共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活暦を把握し、声かけや、話を傾聴する事で不安を解消できるよう心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時、契約時に家族の思いや苦勞話などを記入していただいています。また、入居時にも家族の求めている事をゆっくり傾聴しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談時、入居申し込み時、契約時に福祉用具の購入、訪問リハの必要性などを話し合い、適切なサービスが受けられるようにしています。最近では自費レンタルの話もしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬意を持ち、家族のような関係が築けるよう心がけています。一緒に買い物に出かけたり、家事をおこなったりしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を大事にしなが、面会にみえたときには、家族にも笑顔がみられるよう心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話の中でなじみの場所などを聞き、他の入居者様と出かけるようにしています。また、親しい方に面会をしていただけるよう家族に話をしています。	2ヶ月に1回ほど同級生がお花を持って会いに来る人がいる。お墓参りや外食にも出かけている。以前行っていた喫茶店へ他の利用者も一緒に行き、帰りに自宅を見てくる人もおり、馴染みの関係の継続支援に家族にも手伝ってもらいながら努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居間もない方には職員が特に関わりを持つようにし、よい関係を築けるよう配慮しています。また、楽しく生活ができるよう話の傾聴に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了、また相談があったけれども入居されなかった方には電話などで近況の確認をしています。また、施設を訪ねてくださる家族様も見えます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から思いや暮らし方の希望を聞いています。また、最適な方法を家族とも相談しています。	利用者のちょっとした表情を見逃さず、気付いた事を職員間で話し合い共有している。また、それらを介護計画に組み込んで全職員が思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に家族・本人から生活歴の記入をお願いしています。また、日々の会話の中から、価値観や地域の関わり方などを把握し、職員間で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り表を活用し、一人ひとりの生活のリズム・日々の変化を総合的に把握するよう努めています。また、看護師や主治医の往診を受け、心身の状態の把握をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを含め、担当者で話し合いをし、月に1度の会議でもスタッフとカンファレンスを行なっています。また、ご利用者様、ご家族様をとの話し合いも面会時に行なっています。往診時に主治医の先生からも助言を頂いております。	月1回カンファレンスを行い評価している。評価項目の中には利用者や家族、職員の評価も入っている。それを下に6ヶ月毎に介護計画を作成しており、現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、介護日誌、申し送り表、連絡ノートを利用し、職員間での申し送りをし、情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日回を兼ねて、外食・外出支援したり、昼食に食べたいものを買って出かけています。家族との時間も大事にいただいています。外食に出かける方も見えます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのお地藏さんへお参りに行き、近所の方と挨拶をしています。美容院・喫茶店・図書館なども利用しています。また、保育園や、中学校とも交流できるようになりました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の1ヶ月に2度の往診があり、適切な医療を受けて見えます。また調剤薬局の方も敏速に動いてくださいます。体調に変化があったときは、家族の病院受診もお願いしています。家族の同行が難しいときは施設側で対応しています。	主治医の往診の他に、利用者の個人の専門医の受診もしている。職員が双方に情報を提供して連携はできており適切な医療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の気づきを看護師に気軽に相談できるような体制をとっています。家族や訪問看護師には施設長を通して連絡をし、病院受診が出来るように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療関係・夜間の緊急時対応機関として一宮西病院・松原クリニックと提携しています。またさとこまき調剤薬局も敏速に対応していただいています。退院が早期に出来るよう相談員・家族との連絡を密にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、本人・ご家族様に看取りについての話をさせていただいています。同意書については主治医の先生から話があったときにサインを頂いています。講師を読んで看取りの勉強会をおこない、安心して最期を迎えられるようチームで連携をとっています。	重度化や終末期についてホームとしての方針は家族に説明して納得してもらっている。外部から講師を招き看取りについての勉強会を行い、その後職員の心構えに変化が見られ、11月には終末期を向えた利用者の家族、医師と連携を図り落ち着いて支援をすることができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備し、勉強会で周知徹底を図っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力をへて年2回、全員を外へ避難させる訓練を行なっています。民生委員の方に協力を呼びかけ、職員の消火訓練も行なっています。自主的な避難訓練は毎月行なっています。	毎月1回はホームの出火場所を変えて避難訓練をしている。毎月行なうことで利用者の避難時の特徴が把握できるようになったことと、全職員が動きがスムーズになってきている。地域の人には利用者の人数を把握してもらえよう依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人間として尊厳を持ち、対応しています。個人情報の取り扱いに関しても細心の注意を払っています。	職員は利用者一人ひとりに合わせて親しみやすい言葉使いに努めているが、利用者を尊重している。書類面は事務所の目に付きにくい所に保管して個人情報に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	皆様の思いが表現できるよう声かけ・話の傾聴に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調・気候を配慮しながら、一人ひとりの気持ちを大切に接しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗顔時、鏡を見ていただき身だしなみを整えていただいています。また、訪問美容を利用し、美容師さんにカット・パーマ・毛染め・顔そりなどをしていただいています。また、近所の美容院へ散歩がてら出かける事もあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事をして頂けるよう食事のメニューについて話をしたり、盛り付け・片付けを手伝っていただいたりしています。1ヶ月に1回の外食はとても喜んで下さっています。	業者から食材を取っているが、利用者の好きなメニューに変更することもある。誕生日にケーキを作ったり、たこ焼きなどおやつを職員と利用者と一緒に作ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューに関しては業者にお申し、栄養バランスの良いものを提供しています。また、水分補給に関しても、脱水にならないよう常にお茶が飲めるよう準備しています。自分で摂取出来ない方にはトロミをつけて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的には本人の意思に任せています。嚥下障害による肺炎防止に努めるため、口腔ケアの大切さを話し磨き残しのある場合は一部介助をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し、一人一人の排泄サイクルを把握できるようにしています。出来る限り、トイレでの排泄が出来るよう支援しています。また、日中はリハビリパンツから下着に替えていただいている方も見えます。	意志疎通が出来ない人には2時間程で声をかけてトイレ誘導している。自立している人には排泄チェック表を下にして声をかけている。夜は2時間毎に確認しているが、様子を見てトイレに誘うこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食事の工夫をし、排便コントロールが出来るように心がけています。また、身体を動かす事で、楽に排便できるように心がけています。また、主治医の方からラキソを処方されている方も見えます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ヒノキのお風呂を使用し、安心してゆっくり入浴していただけるよう職員が1対1で対応しています。2～3日を目安にしていますが、強制はしていません。	入浴は13時頃からとなっている。入浴を嫌がる人には声をかける方法を考え無理強いはしないようにしている。また、シャワー浴の人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動的に生活が出来るよう支援していますが、一人一人の身体状況・生活習慣に合わせて介助をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、主治医・薬剤師・家族と連携を取り、用法・容量について把握をしています。処方箋により薬の内容を把握し、スタッフが服薬介助しています。症状の変化についてはスタッフ間の申し送りを行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	疲れない程度にお手伝いを頼んだり、四季折々の行事に参加していただけるよう声かけをしています。そして、感謝の言葉を忘れないようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせた行事への参加を勧めます。また、戸外に外出できるよう支援に努めています。喫茶店・買い物はもとより、お墓参りや図書館などへも出掛けるようになりました。また、中学生の体験学習なども手がけ、一緒に外出しました。	日常的に近隣の散歩に出かけているが、その他にも花見や公園などへドライブをして、回転ずしなどの外食をすることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から、お金を預かり、管理しています。外出時、本人にお金を支払ってもらったりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の面会がかなりあり、本人も落ちついて生活してみえます。希望のある方には電話をしていただいています。本人に代わり、電話することもあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は暖かい雰囲気を作るために電球にも工夫をしています。また南側は木々に囲まれ、窓からは明るい日が差し、暖かい家庭的な雰囲気を作っています。暖房・冷房なども完備し、加湿機なども利用しています。	居間は窓が大きく開放感がある。利用者はそこから外を眺めてのんびり寛いだり、テーブルを囲み利用者同士で会話することもよくある。浴室、トイレ、廊下など掃除がゆきとどいて清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話の合う方とテーブル席でおしゃべりしたり、畳のところでくつろいだり、テレビを見たり出来るように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスなど、馴染みの物を持って入所され、居心地よく生活していただいています。	居室はスッキリとしているが、本、テレビ、ホームで作った折り紙の作品が置いてあるなど、利用者一人ひとり居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には階段・トイレを除きほとんど手すりをつけておらず、自分の力を活かして自立した生活が送れるよう、安全確保と自立への配慮をしています。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2392200073
事業所名	グループホーム 奥町

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい (外部評価項目：2)	評価
	保育園の行事や中学校の運動会に参加できるようになり、子供とのふれあいを利用者は楽しみにしている。買物や喫茶店に行くことで、顔なじみになり地域のひとと挨拶したり話をしたりしている。フラメンコなどのボランティアの来訪や中学生の体験学習の受け入れも行なっている。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み (外部評価項目：3)	評価
	年6回開催し、主な出席者は高年福祉課職員、地域包括センター職員、住民代表、家族などである。事故報告や困っていることを話し合い参加者から意見をもらい、サービスの参考となっている。東日本の震災以降は防災の話が多く出るようになった。	○
重点項目③	市町村との連携 (外部評価項目：4)	評価
	市の職員が運営推進会議に参加しており、何かあればすぐ相談しているので連携はよく取れている。困ったことがあれば出向いて話している。また、市主催の「虐待防止」や「薬の知識」などの研修に参加している。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映 (外部評価項目：6)	評価
	家族会を年2回行なっている。6月は平日に行なったため家族より日曜日にして欲しいと要望があり、11月はもちつきを兼ねて日曜日に行なった。家族や知人の来訪が多く、家族からの伝達に漏れがないように心がけている。職員の手書きの便りを定期的に発行して、利用者の日頃の様子を伝えている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	○	○			

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況 (外部評価) が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認 (記録、写真等) できること。

外部評価項目	確認事項
	(例示)
2. 事業所と地域のつきあい	① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取り組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的 (年2回以上) に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的 (年2回以上) に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。